

第5章 終章

- 1 現代医学への疑問～鍼灸医学が正当に理解されていない
- 2 結語～歴史は繰り返す
- 3 本研究の限界と課題
- 4 文献
- 5 おわりに

1 現代医学への疑問～鍼灸医学が正当に理解されていない

人間は本来、自分の身体のあり方に決定権をもっており、いかなる病因に関わらず、疾病に罹った際、どのように処置するかは自由である。自然治癒のみに頼ることも、宗教や民間医療に委ねることも、そして、仮に医療という手段を選択するとしても東洋西洋のどちらの門を叩くのもそもそも自由なはずである。現代日本では、この重要な自由や選択権が忘れられ、病は悪でありその悪と戦うために、現代医療という絶対的な権限を国から委託され、善の象徴であるかのような病院の白衣をまとった医師に、金の無駄使いとしか言えないような医療保険制度をつかって委ねなければならない。

現代医療は、保健財政の破綻の予感、生活習慣病や癌、難病といった不治の病への対処への限界、高齢化社会への対応などといった国家社会が直面する様々な問題に直面している。これは現代医学への期待が大きいことと同時に、医学が単なる疾病の治療に止まらず文化文明と密接に関わっているという証左であると考えられる。現代の病理は現代医学だけではどうも対処できる問題ではなく、過度な期待であるということを国家国民が理解できないことも不思議である。方やEBMは確立されていないが、鍼灸を施すものが日々の臨床から確実に手応えを得ている鍼灸医療が既に欧米では、国家の医療問題解決の一つの選択肢になり、世界のスタンダードになりつつある。

確かに、この約百年間に西洋医学が日本国民へ健康・衛生面に寄与した功績は多大な評価に値する。しかし、近年は疾病構造が変化して生活習慣病が主体になり、これまでの現代医学の対応では十分でないと感じ始め、医療制度に対する不満や医療保険制度の破綻もささやかれている。日本政府（厚生労働省）が現代まで、西洋化一辺倒で推進してきた歪みが徐々に現れてきているのだ。

現在、医学部教育のコアカリキュラムに「和漢薬の概要説明」1単位が盛り込まれ、2008年には広告可能な診療科名に「漢方内科」が標榜できるようになったとはいえ、東洋医学が現代日本の法的・制度的な医学医療に正式に位置づけられている印象はまだ低い。鍼灸師に関しては「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」で身分が保証されていることさえあまり知られていない。さらに鍼灸治療は医療制度や医療保険で医療として位置づけられているとは言い難く、国民にも当の鍼灸師に、その社会的な位置づけがわかりにくくなっているのが実情である。

現代日本における鍼灸のおかれた位置とはどのようなものなのか、この問題を考えるにはその変遷、特に日本文化・文明が大きな転換期となった近代や第二次大戦後の検証が必要である。

2 結語～歴史は繰り返す

国立国会図書館の文献や各地の公文書館の一次資料などから、日本近代の鍼灸教育に関する私立鍼灸学校の実在が明らかになり、現代日本の鍼灸専門学校教育の源流が近代の私立の各種学校であることがわかった。

日本近代は明治維新とともに国家の文明開化、富国強兵、殖産興業のかけ声で西洋医学を急進的に浸透させるために、近代教育制度とともに制度的な試行錯誤を経て展開されていった。鍼灸に関しては江戸時代から続いた漢方の消滅の陰で生き残り、医術とは別に「鍼灸術の営業」という形で国家から監視されながら展開していった。当時の医学は法律制度や教育制度の進展とともにすでにヒエラルキーが形成されていた。漢方医学は当時の医学のセクトに組み入れられることなく消滅した形になったし、鍼灸は医学というカテゴリーからはほど遠いものであったと考える。近代の医療制度である医術開業試験・医師免許規則・医学校通則と鍼灸術営業差許方・鍼灸術営業取締規則には制度上の大きな違いと壁があったと考える(図1)。

鍼灸教育に関しては、近代初期に学校設立の動きが見られるが、制度的な認可には至らず私塾形式で行われていたようだ。制度的医療や学校制度の整備とともに、国民の健康意識の向上、様々な療術の勃興といったニーズとともに私立鍼灸学校体制が徐々に整備された。1911年の取締規則の制定に後押しされる形で、近代後期がまさに鍼灸学校教育の黎明期であったといえるが、学校教育環境が体系的に整っていたとは言い難い。これらの教育機関は私塾や講習所(学院)、私立鍼灸学校(各種学校)、指定学校という一種の階層構造をなしていたと考える。

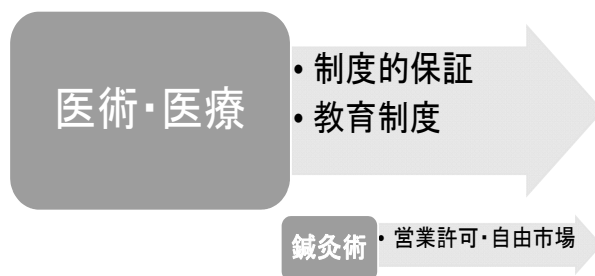
近代において鍼灸という現象は、医学医術とは少々異なるフィールドで展開していった。しかし、国民の健康意識の変化にともなう療術の流行などとも無縁ではなく、近代日本の国民のニーズやその時代の社会情勢に影響されていたと考える。特に、戦前戦時下の国家総動員下においては医療の一端を担っていた一面もあり、その勢いをもとに鍼灸専門学校の設立が当時の鍼灸関係者の念願であったが近代に実現することはなかった。

現代は、福岡地裁判決(1998)後の未曾有の鍼灸専門学校の急増が斯界の大きな問題になっている。鍼灸のニーズは不況が追い打ちをかけるように低迷し、急増した鍼灸専門学校の淘汰という事態も発生しており、学生と教育の質が現実問題として問われている。近代の私立鍼灸学校もすべて民間経営であり、学生数の確保といった経営面の苦労や良質な教員による教育の質といった苦労があったようだ。すでにその時代から質が問われていたことが関西で精力的に活動していた明治鍼灸学校の山崎良斎の以下の発言からもわかる¹⁾。

「鍼灸受験者の数は年々歳々増加しつつあるが合格者の数は年々歳々減少しつつあり、受験者総数の一割にも足らない状態である。これは受験者の実力不足に基づき、実力不足は

図1 結論

近代医療制度の進展に比べ、鍼灸は制度的な保証もなく、「営業許可」という異なる形で展開された。(近代も今も自由市場であった)



無責任なる教師の罪に帰せねばならぬ。実際、今日鍼灸教育界の現状を知る者から見れば試験成績の不良は当然の結果である。昨今競ふて、生徒募集をなしつつある鍼灸学院に真に後進者を指導し得る資格あるもの何程ありや、斯界の実際を知る者から見れば実にお話にならぬ者が多い」。

情報の氾濫とともに、変化が著しい先の読めない時代が今後も続く。今後、日本が戦争に巻き込まれる可能性は皆無といえるのか。日本経済の破綻とともに、急増した鍼灸専門学校が瓦解してしまつては元の木阿弥である。鍼灸教育の質を高め、土台を強化して長期的ヴィジョンを描き、中短期的な戦略が求められている。「歴史は繰り返す」ということばがあるように、近代の可能性から学ぶことに意義があると考えられる。

1) 山崎良斎. 受験者を指導せよ. 日本鍼灸雑誌. 第 269 号巻頭言. 1926:275.

3 本研究の限界と課題

国立国会図書館や大学図書館、各地の公文書館を中心に文献検索したが、いわばローラー作戦であったので、時間と行動に制限があった。これまで研究として取り組まれているわけではなく、一定の方法論があるわけではないが、時間と行動の制限があるなかでも仮説を検証するための事実の一部は把握することはできた。

国家が積極的に関与していない証拠として、国家が残したわずかなデータがかなり不完全であるということもわかった。事実としてのデータはまだ埋もれているという感触はある。これは、この分野がまだまだ未開な研究分野であり、事実すら検証されていないということでもある。

本研究は、あくまでも施療者側からの観点を中心であった。近代社会においては、西洋医学医療より、鍼灸の方が国民に近い存在だったと考える。制度的保証のなかった鍼灸が生き残ったのは国民の一定のニーズがあったからに他ならない。本研究ではこのニーズまで知ることはできなかったが、研究を進めながら非常に気になる側面であった。

今後、近代国民の鍼灸に対する視線を少しでも明らかにする必要がある。

日本近代社会の都市文明における、鍼灸という、限りなく医学・医療に近いが制度外の現象はおぼろげに捕らえることしかできなかった。そして、このような研究が現代にどのように還元できるのかも考えなくてはならない。

現代を考えるには近代以後、戦後の変遷がますます気になる場所であり、さらなる研究が求められる。

4 文献

- 1) 繃田豊次郎. 鍼灸学新論. 初版. 大阪. 1907.
- 2) 天野郁夫. 高等教育の日本的構造. 初版. 東京. 玉川大学出版部. 1986.
- 3) 猪飼周平. 明治期日本における開業集団の成立. 大原社会問題研究所雑誌 511. 2001.
- 4) 石崎直人他. 我が国における鍼灸の利用状況に関する全国調査その1 鍼灸治療の利用状況について. 全日本鍼灸学会雑誌. 2005.
- 5) 医事法制研究会監修. 東洋療法学校協会編. 関係法規-第6版-. 医歯薬出版株式会社. 2003.
- 6) 医道の日本. 歴史に残る斯界の人々其の一 柳谷素靈. 医道の日本 710号. 2003.
- 7) 医道の日本. 歴史に残る斯界の人々其の三 山崎良斎. 医道の日本 712号. 2003.
- 8) 医道の日本. 歴史に残る斯界の人々其の五 山本新梧. 医道の日本 714号. 2003.
- 9) 医道の日本. 歴史に残る斯界の人々其の十九 久木田伊助. 医道の日本 729号. 2004.
- 10) 医道の日本. 歴史に残る斯界の人々其の三十一 坂本貢. 医道の日本 741号. 2005.
- 11) 今西二郎 渡邊聡子. 代替医療とは. 今西二郎編集. 別冊・医学のあゆみ. 代替医療のいま. 医歯薬出版. 2000.
- 12) 上田孝之. 鍼灸と柔道整復における環境比較について.
学生と治療家のための鍼灸整骨総合サイト/未来への提言. <http://sqs.jp/.html>
- 13) 上野圭一. 補完代替医療入門. 初版. 東京. 岩波書店. 2003.
- 14) 宇和川義瑞. 近世鍼灸学教科書. 九州鍼灸学校. 長崎. 1936.
- 15) 大川原潔. 鍼灸制度発展の経緯と歴史的背景. 帝京平成短期大学紀要第3号. 1993.
- 16) 岡本愛雄. 実用鍼灸学初歩. 初版. 東京. 半田屋医籍商店. 1901.
- 17) 屋宮憲夫. 柔道整復師養成施設の不指定処分取消事件. 公正取引 No578. 1998.
- 18) 屋宮憲夫. 柔道整復師等の養成施設の開設制限と独占禁止法上の規制—柔道整復師養成施設不指定処分取消訴訟をめぐる—. 社会鍼灸学研究2006創刊号. 社会鍼灸学研究会. 2007.
- 19) 奥村三策. 按摩鍼灸学. 18版. 東京. 誠之堂. 1902.
- 20) 大口俊徳他. 鍼灸需要喚起のため提言. 医道の日本. 2006.
- 21) 大嶋真吾. 世界の鍼灸コミュニケーション(13)英国の大学における針灸教育事情.
全日本鍼灸学会雑誌 49巻4号. 1999.
- 22) 海洋. 世界の動き/アメリカの中医教育. 中医臨床プラス Vol126No4 通巻103号. 2006.
- 23) 海洋. 世界の動き/イギリスの中医教育. 中医臨床プラス Vol127No2 通巻105号. 2006.
- 24) 海洋. 世界の動き/ドイツの中医教育. 中医臨床プラス Vol128No1 通巻108号. 2007.
- 25) 海洋. 世界の動き/フランスにおける針灸教育. 中医臨床プラス Vol128No4 通巻11号. 2007.
- 26) 形井秀一他. WHO 経穴部位国際標準化交際会議報告. 医道の日本第759号. 2008.
- 27) 形井秀一他. 世界の鍼灸教育の現状報告と日本伝統鍼灸の課題. 日本伝統鍼灸学会雑誌 34巻2号(62号). 2006.
- 28) 金井貴嗣. 柔道整復師養成施設の不指定処分が取り消された事例. ジュリス No1167. 1999.
- 29) 鹿野政直. 日本近代化の思想. 初版. 東京. 講談社. 1986.
- 30) 上地栄. 昭和鍼灸の歳月. 初版. 東京. 績文堂. 1985.
- 31) 韓民. 現代日本の専門学校-高等職業教育の意義と課題-. 初版. 東京.
玉川大学出版部. 1996.

- 32) 北川裕康. 世界の鍼灸コミュニケーション(30)ドイツ鍼灸事情 2008.
全日本鍼灸学会雑誌 59 巻 1 号. 2009.
- 33) 呉竹学園 (東京医療専門学校) ホームページ. 歴史より.
http://www.kuretake.ac.jp/t_therapeutic/intro_history.htm
- 34) 黒田浩一郎編. 現代医療の社会学-日本の現状と課題-. 初版. 東京. 世界思想社. 1995.
- 35) 健康日本 21 ホームページ. 「21 世紀における国民健康づくり運動 (健康日本 21) の推進について」及び「健康増進法について」.
<http://www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/about/tsuuchibun/115.html>
- 36) 厚生省医務局編. 医制八十年史. 印刷局朝陽会. 1955.
- 37) 厚生省医務局. 医制百年史 記述編. 資料編. ぎょうせい. 1976.
- 38) 厚生省五十年史編集委員会. 厚生省五十年史 記述編. 厚生問題研究会. 1988.
- 39) 厚生省. 厚生白書 (平成 9 年版) 「健康」と「生活の質」の向上をめざして.
<http://www.hakusyo.mhlw.go.jp/wp/index.htm>
- 40) 厚生労働省. 平成 17 年(2005)患者調査の概況. 傷病分類別受療率
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/05/index.html>
- 41) 小金井義. 各種学校の歴史①. 各種学校育 (全国各種学校総連合会機関誌) 第 1 号. 1964.
- 42) 小金井義. 各種学校の歴史⑤. 各種学校教育 (同上) 第 6 号. 1966.
- 43) 斉藤宗則. 世界の鍼灸コミュニケーション(16)中国の全国統一試験事情.
全日本鍼灸学会雑誌 50 巻 4 号. 2000.
- 44) 酒井シヅ. 日本の医療史. 初版. 東京. 東京書籍. 1982.
- 45) 坂本歩. 時代の変化に鋭敏に対応する努力を惜しまず. くれたけだより
(東京医療専門学校同窓会誌). 第 27 号. 2007.
- 46) 坂本貢. 鍼灸医学精義. 東京. 大倉廣文堂. 1933.
- 47) 坂巻弘之他. 韓国 (大韓民国) における統合医療の調査研究.
厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業) 統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 48) 坂巻弘之他. ドイツ (ドイツ連邦共和国) における統合医療の現状調査研究.
厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業) 統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 49) 佐藤純一編. 文化現象としての癒しー民間医療の現在ー. 第 1 版. メディカ出版.
大阪. 2000.
- 50) C.F. サムス著. 竹前栄治訳. GHQ サムス准将の改革. (戦後日本の医療福祉政策の原点).
初版. 東京. 桐書房. 2007.
- 51) 島藺進. 〈癒す知〉の系譜 科学と宗教のはざま. 初版. 吉川弘文館. 東京. 2003.
- 52) 白瀬由美香. イギリスにおける保健サービスの展開ーNHS 成立に関する一考察.
<http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/112taikai/F6-2Shirase.pdf>
- 53) 週刊あはきワールド. ニュース(鍼灸 179 億円, マッサージ 246 億円, 柔整 3098 億円
2005 年度の療養費が明らかに 療養費の年次統計を厚労省発表)
http://www.human-world.co.jp/ahaki_world/newsfile/07/newsf071107_1.html
- 54) 城一格. 専門学校程度の国務大臣指定鍼灸医学校を. 東邦医学 8 巻 4 号. 1941.

- 55) 代田文誌. もっと高い程度の鍼灸医学専門学校を設立させよ. 東邦医学 8 巻 4 号. 1941.
- 56) 新健康フロンティア戦略賢人会議. 新健康フロンティア戦略～健康国家への挑戦. 2007.
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkou/dai3/honbun.pdf#search='新健康戦略>
- 57) 新村択. 健康の社会史 養生、衛生から健康増進へ. 初版. 東京. 法政大学出版局. 2006.
- 58) 菅谷章. 日本医療制度史. 改訂増補版. 東京. 原書房. 1978.
- 59) 鈴木信孝. 米国での代替医療の現状. 別冊・医学のあゆみ 代替医療のいま.
 医歯薬出版. 2000.
- 60) 創立六十周年記念事業実行委員会. 六十年のあゆみ. 初版. 東京. 東京医療専門学校.
- 61) 高橋至誠. 専門学校の創立を断行すべし. 東洋鍼灸雑誌 26 号. 1920.
- 62) 武田秀孝編. 法人設立 10 周年記念誌—法人設立 10 年の歩み—. 東洋療法学校協会. 1995.
- 63) 竹山晋一郎. 漢方医術復興の理論 改稿版. 續文堂 初版. 1995.
- 64) 田邊信太郎, 島藺進, 弓山達也. 癒しを生きた人々—近代知のオルタナティブ—.
 第 1 版. 東京. 専修大学出版局. 2001.
- 65) 谷口和久. 日本鍼灸の免許制度・教育制度. 全日本鍼灸学会雑誌. 2006.
 『六十年の歩み』千葉県立千葉盲学校編 1972 年初版
- 66) 東京都柔道整復師会. 東京都柔道整復師会六十年史. 東京都柔道整復師会. 1980.
- 67) 東京教育大学雑司ヶ谷分校. 視覚障害教育百年のあゆみ. 第一法規出版. 東京. 1976.
- 68) 東京鍼灸治會發會式祝詞演説 (NDL 蔵書) 編輯人: 茨城縣士族 岡本元資
 発行人縣印刷人: 鹿児島縣士族 渡瀬正造. 1879.
- 69) 西村周三他. アメリカ (アメリカ合衆国) における統合医療の現状調査研究.
 厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業) 統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 70) 西村周三他. イギリス (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国) における統合医療の現状調査研究. 厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業)
 統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 71) 西村周三他. フランス (フランス共和国) における統合医療の現状調査研究.
 厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業) 統合医療による国民医療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 72) 日本柔道整復師会編. 柔道整復白書: 伝統医療の継承と明日への飛躍 2003.
 日本柔道整復師会. 2003.
- 73) 日本鍼灸雑誌. 専門学校の設立. 日本鍼灸雑誌第 141 号. 大日本鍼灸師會. 1915.
- 74) 日本鍼灸雑誌. 熊本県鍼灸学校設立される. 日本鍼灸雑誌第 248 号. 大日本鍼灸師會.
 1924.
- 75) 日本鍼灸雑誌. 鍼灸学校創立して. 日本鍼灸雑誌第 249 号. 大日本鍼灸師會. 1925.
- 76) 日本鍼灸雑誌. 本誌の使命. 日本鍼灸雑誌 273 号. 大日本鍼灸師會. 1927.
- 77) 日本鍼灸雑誌. 大阪繃深鍼灸学校創立第二十週年記念祝賀会. 日本鍼灸雑誌第 315.
 大日本鍼灸師會. 1930.
- 78) 日本鍼灸雑誌. 公認小倉鍼灸学校開校披露式. 日本鍼灸雑誌第 324 号. 大日本鍼灸師會.
 1931.
- 79) 日本鍼灸雑誌. 純専門の鍼灸学校生る. 日本鍼灸雑誌第 324 号. 大日本鍼灸師會. 1931.

- 80) 日本鍼灸雑誌. 純専門の鍼灸医養成校公認鶴嶺鍼灸学校生. 日本鍼灸雑誌第 349 号.
大日本鍼灸師會. 1933.
- 81) 日本鍼灸雑誌. 情報. 日本鍼灸雑誌第 409 号. 大日本鍼灸師會. 1939.
- 82) 日本鍼灸雑誌. 名古屋の於ける鍼灸学生雄弁大会. 日本鍼灸雑誌第 419 号.
大日本鍼灸師會. 1939.
- 83) 日本鍼灸雑誌. 九州鍼灸学校指定校に昇格. 日本鍼灸雑誌第 420 号. 大日本鍼灸師會.
1939.
- 84) (社) 日本理学療法士協会ホームページ. 理学療法士養成校一覧 (平成 20 年度).
<http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/school.html>
- 85) 野田忠廣. 規則発布に付て. 東京鍼灸雑誌三交第 10 号. 1912.
(森秀太郎監修 東洋医学雑誌復刻叢書 9 オリエント出版社 2005.)
- 86) 原純輔. 教育と階層・不平等 (社会階層と不平等. 放送大学教材). 初版. 東京.
放送大学教育振興会. 2008.
- 87) 判例タイムズ社. 柔道整復師養成施設の指定を行わない旨の厚生大臣の処分が違法である
として取り消された事例. 判例タイムズ No987. 1999.
- 88) 広井良典他. 中国 (中華人民共和国) における統合医療の調査研究.
厚生労働省科学研究費補助金 (医療安全・医療技術評価総合事業) 統合医療による国民医
療費への影響の実態把握研究分担研究報告書. 2008.
- 90) 広島県. 広島県統計書. 「学事」. 1924 ~1938.
- 91) 傳維康著, 川井正久編訳. 中国医学の歴史. 東洋学術出版社 第 2 版. 2003.
- 92) 藤井亮輔. 盲学校における職業教育の変遷と課題. 日本ライトハウス 21 世紀研究会編.
わが国の障害者福祉とヘレンケラー. 初版. 東京. 教育出版株式会社. 2002.
- 93) 富士川游著 小川鼎三校注. 日本医学史綱要. 東洋文庫 258. 初版. 東京. 平凡社. 1990.
- 94) 藤田康介. 2007 年度から中国で専門学校類の中医学関係学科廃止へ.
<http://www.chuui.co.jp/cnews/001186.php> (中国最新情報). 2007
- 95) 保寶弥一郎. 私立鍼灸学校の現状と其改善策. 東邦医学. 第八卷第九号 (昭和 16 年). 1941.
- 96) 松井繁. 近代鍼灸教育の父 奥村三策の生涯. 初版. 大阪. 森ノ宮医療学園出版部. 2004.
- 97) 箕輪政博, 形井秀一. 福岡裁判が鍼灸教育の質へ及ぼした影響. 社会鍼灸学研究 2007
第 2 号. 社会鍼灸学研究会. 2008.
- 98) 箕輪政博, 形井秀一. あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師学校養成施設の変遷と
現状—特にその創立期に着目して—. 全日本鍼灸学会雑誌. 2006.
- 99) 宮城栄昌. 延喜式の研究 資料編. 大修館書店. 四版. 1996.
- 100) 文部省調査局調査課編. 各種学校の沿革と現状. 初版. 東京. 文部省調査局調査課. 1953.
- 101) 文部科学省ホームページ. 白書. 学制百年史 資料編 [一 教育法規等 (八) 青年学校令].
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpbz198102/hpbz198102_2_136.html
- 102) 文部科学省ホームページ. 白書. 学制百年史 資料編 [一 教育法規等 (一) 私立学校令]
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpbz198102/hpbz198102_2_017.html
- 103) 文部科学省ホームページ. 白書. 学制百年史. 第一編 代教育制度の創始と拡充.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpbz198101/hpbz198101_2_035.html
- 104) 文部省. 文部省第 40 年報. 1912. ~ 文部省第 78 年報. 1950.

- 105) 八瀬善郎ほか. 鍼灸の教育・研究と制度をどうするか (第 55 回全日本鍼灸学会学術大会シンポジウム). 全日本鍼灸学会雑誌 2006.
- 106) 柳谷素霊. 鍼灸医学全書. 東京. 半田屋出版部. 1935.
- 107) 矢野忠他. 今、鍼灸界は何をしなければならないのかー鍼灸医療に関するアンケート調査からの一考察ー. 医道の日本 64(9). 2005.
- 108) 山崎良齊. 受験者を指導せよ. 日本鍼灸雑誌. 第 269 号巻頭言. 1926.
- 109) 山崎良齊. 最新鍼灸医学教科書. 3 版. 大阪. 日本医書株式会社. 1929.
- 110) 山本新悟. 日本鍼灸学教科書. 15 版. 大阪. 関西鍼灸学院出版部. 1913.
- 111) 山本新悟. 指定学校の重大使命. 東洋鍼灸雑誌 268 号. 1940.
- 112) 米山博久. 現代日本の針灸の動向. 医道の日本別冊 現代日本の針灸. 神奈川. 医道の日本社. 1979.
- 113) 邊聡子, 今西二郎. ヨーロッパでの引用代替医療の現状. 別冊・医学のあゆみ. 代替医療のいま. 医歯薬出版. 2000.
- 114) NIH consensus development panel on acupuncture. JAMA, 1998 ; 280 (17) : 1518-24.
- 115) Mark Silyert. Acupuncture wins BMA approval, BMJ, 2000;321:11
<http://www.bma.org.uk/ap.nsf/Content/Acupuncture>
- 116) Terminology : Chinese medicine, particularly acupuncture, is the most widely used traditional medicine. It is practiced in every region of the world.
http://whqlibdoc.who.int/hq/2001/WHO_EDM_TRM_2001.2.pdf

本研究関するこれまでの学会発表や論文などについて

主な学会発表

2005 年

第 54 回全日本鍼灸学会学術大会福岡大会 あはき師学校養成施設の変遷と実情

第 33 回日本伝統鍼灸学会学術大会東京大会

あはき師学校養成施設の変遷ー伝統的な鍼灸学校の創立ー

2006 年

第 1 回 社会鍼灸学研究会(筑波技術大学) 鍼灸学校急増の現状と課題

第 34 回日本伝統鍼灸学会学術大会大分大会 鍼灸教育と古典ー戦前教育を中心にー

2007 年

第 24 回日本東方医学会 鍼灸専門学校の急増の現状と課題

第 2 回 社会鍼灸学研究会(筑波技術大学) 福岡地裁判決が鍼灸教育に及ぼした影響

第 35 回日本伝統鍼灸学会学術大会札幌大会 鍼灸教育における東洋医学教育の位置

2008 年

第 3 回 社会鍼灸学研究会(筑波技術大学) 日本の鍼灸研究の変遷ー博士号取得者の実状

2009 年

第 4 回 社会鍼灸学研究会(筑波技術大学)

医療の「外側」の制度とニーズー近代を振り返り現代を考えるー

主な論文

- ・ あん摩マッサージ指圧師, はり師, きゆう師学校養成施設の変遷と現状
—特にその創立期に着目して—
全日本鍼灸学会雑誌 第56巻4号 報告 2006年
- ・ 鍼灸学校急増の現状と課題—その変遷に着目して 社会鍼灸学研究 2006 創刊号 2007年
- ・ 近代後期の鍼灸教育と古典
—近代後期の鍼灸学校で使用されていた教科書に着目して—
日本伝統鍼灸学会雑誌 第34巻2号 原著 2008年
- ・ 鍼灸専門学校の急増の経緯について—その現状と課題—
東方医学 第24巻第1号 原著 2008年
- ・ 福岡地裁判決が鍼灸教育の質へ及ぼした影響—学生や教員の質に着目して—
社会鍼灸学研究 2007 第2号 2008年

その他の執筆

- ・ 鍼灸治療 医療制度化は患者にも利益
朝日新聞オピニオン面「私の視点」2009年11月28日朝刊
- ・ 鍼灸師のためのライフワーク指南
月刊 医道の日本 第784号 (2009年1月) より現在連載中